

| | | | |
|------------------------|---|----------------------|----------|
| 面積表 | 規定式1. 備出過給心/心寸切の四角算出結果に小取点算入後の算出面積に準じて算出 | 試験場 | 氏名 由がね監督 |
| 建坪面積 | 規定式) 40x32 = 1280 | 924.0 m ² | |
| 在面積 | 最上階 (算式) 32x22 = 704 | 704.0 m ² | |
| 在面積 | 基準階 (算式) 44x22 = 968 | 968.0 m ² | |
| 在面積 | 1階 (算式) 44x22 = 968 | 968.0 m ² | |
| 貸事務所A及び貸事務場の合計床面積 (算式) | 704 m ² x 5層 = 3520 m ² | 3520 m ² | |

空間構成は問題外でいい!! 洗練図面を!!

要求図面では表せない建築物の計画上の要点等について、次の(1)~(7)を具体的に記述又は図示する。

(1) 基準階(貸事務室A、貸事務室B及び共用部)について、次の①、②の観点から配慮したこと

①収益性(レントラブル比に関する記述は除く。)や可変性
 貸事務室A 貸事務室B 共に無柱空間とすることで、広く空間を利
 用できるので収益性が高く、自由に間仕きれるので可変性も高い室とした。
 ②快適性やテナント及び利用者の多様性
 貸事務室A、貸事務室B共に、南側に窓を多く設けて採光をとり、
 利用者の快適性に配慮した。

(2) 最上階(シェアオフィス、共用部及び屋上庭園)について、収益性や快適性、多様な働き方に対応可能な空間づくりの観点から配慮したこと

シェアオフィスのラウンジに屋上庭園を隣接して設け、シェアオフィスの利用者が休憩したり、利用者同士のコミュニケーションをとったりする場所とした。

(3) 採用した構造種別と、その構造種別を採用した理由(無柱空間とするに当たり工夫したこと及び耐震性や経済性等について配慮したことも含む。)

採用した構造種別 (Oで囲む) 木造 ・ 鉄骨造 ・ RC造 ・ SRC造 ・ その他()
 採用した理由(工夫したこと等)：
 耐震性に配慮してRC造で建設することとし、無柱空間を構成するためにPC梁を使用した上で梁せいを他よりも高く、PC梁を支える柱は800x1000mmの断面寸法とした。

(4) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した空調方式と、次の①、②の観点から配慮したこと

採用した空調方式 天井カセット型
 ①設備スペース(室内機、室外機、配管スペース等)の確保
 室外機を置くための設備スペースを屋上の北側に配置し、各階の奇数階に適切にPSを設けた。
 ②貸事務室A及び貸事務室Bの快適性
 天井カセット人型を空調に採用することで、貸事務室A及び貸事務室Bの天井高を2.8m確保し、利用者の快適性に配慮した。

(5) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した排煙方式と、その排煙方式を採用した理由及び配慮したこと

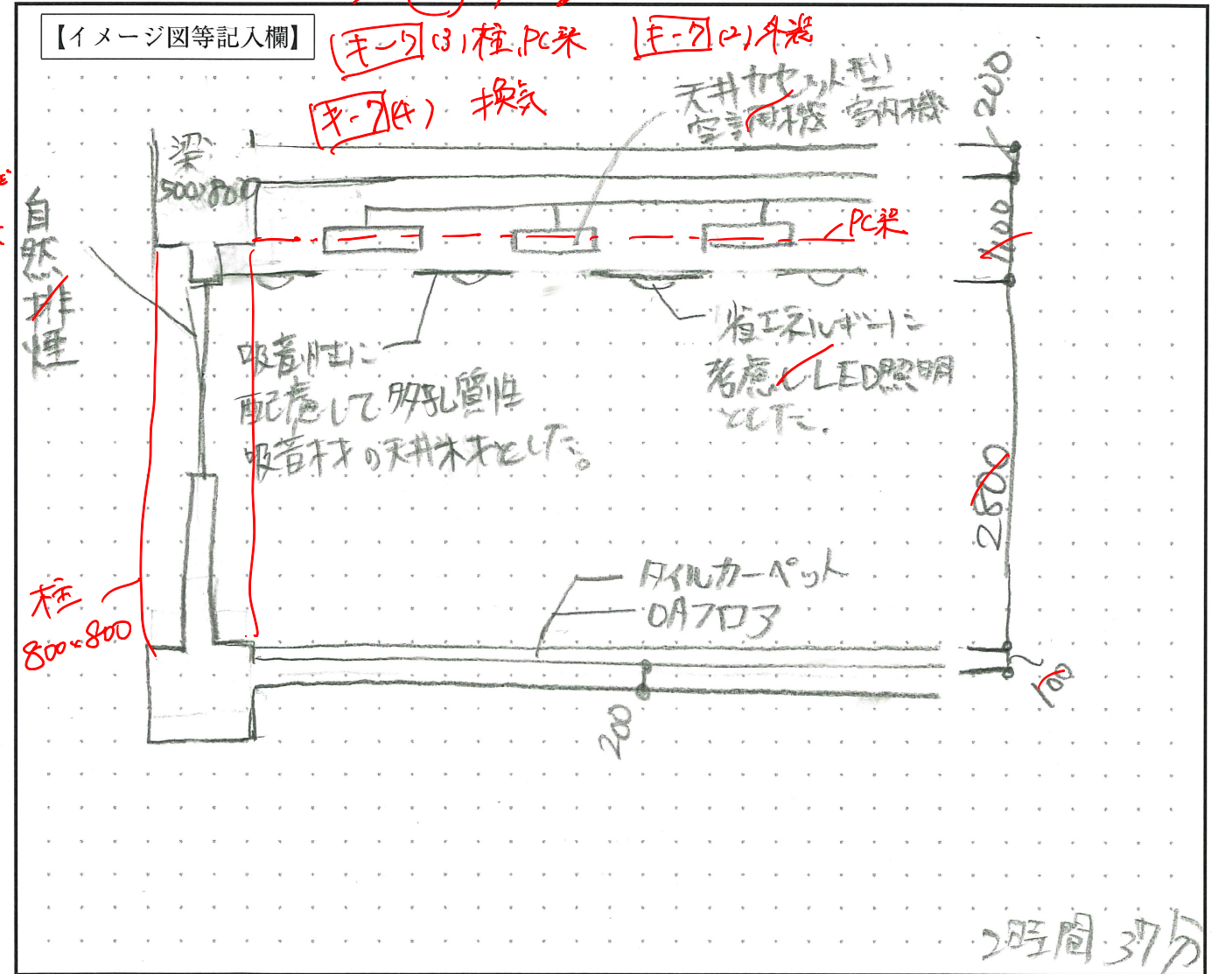
排煙方式 (Oで囲む) 自然排煙 ・ 機械排煙 ・ その他()
 採用した理由及び配慮したこと：
 経済性に配慮して排煙方式は自然排煙とした。

(6) 省エネルギー及び二酸化炭素排出量削減について、次の①~③の観点から配慮したこと

①パッシブ技術
 貸事務室Aの西側に垂直ルーバーを設け、西日に於き室温の上昇をおさえる計画とした。
 ②アクティブ技術
 屋上に太陽光パネルを設置することで、建物利用時の一部の電気エネルギーを発電によりまかなうこととした。
 ③その他(創エネルギー技術、材料の選定等)
 屋上庭園に設置するベンチに間伐材を使用することで、木材の廃棄をへらし、二酸化炭素排出量を削減した。

(7) 貸事務室A又は貸事務室Bのペリメーターゾーンの断面詳細が分かる図やイラスト等(縮尺1/50程度、フリーハンドでもよい。)及び次の①~③のポイント(全て【イメージ図等記入欄】に記入する。なお、(1)~(6)に記述した内容やその他工夫した点を合わせて記入してもよい。)

- ① 建築計画上のポイント(天井高、床高、天井ふところ等の寸法及び内装仕上げ、外装仕上げ等を含む。)
- ② 構造計画上のポイント(柱、梁、床等の主要な構造部材(見えがかりも含む。))の断面寸法を含む。)
- ③ 設備計画上のポイント(空調、換気、排煙、照明等を含む。)



| | | |
|-----|------|--------|
| 試験場 | 受験番号 | 氏名 |
| | | あかね 監督 |